

## 会 議 録

会 議 名	嵐山町都市再生整備計画事業評価委員会					
開 催 日 時	平成 25 年 2 月 19 日（火）	開 会	午前 10 時 30 分			
		閉 会	午後 0 時 15 分			
開 催 場 所	204 会議室					
会 議 次 第	1 開会 2 任命書交付 3 あいさつ 4 委員紹介、事務局紹介 5 議題 （1）委員長および副委員長の選任について （2）会議録署名人の任命について （3）事後評価制度の概要について （4）嵐山北部地区都市再生整備計画について （5）嵐山北部地区都市再生整備計画の事後評価の審議について ・事後評価方法書について ・成果の評価について ・効果発現要因について ・事後評価原案の公表について （6）今後のまちづくりについて ・今後のまちづくり方策について ・フォローアップ計画について （7）評価委員会後のスケジュールについて （8）その他 6 閉会					
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	0 人			
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	委 員	桑田 仁	出	委 員	奥田作雄	出
	委 員	水戸敏允	出	委 員	真澤 栄	出
	委 員	安藤昌夫	出	委 員	田嶋誠市	出
	委 員	木場優价	出			

	岩澤町長	
事務局	総務課長 井上裕美	地域支援課長 中嶋秀雄
	環境農政課長 簾藤賢治	まちづくり整備課長 田辺淑宏
	こども課長 内田 勝	
	総務課副課長 伊藤恵一郎	総務課主査 藤野広之

次 第	顛 末 (要点筆記)
1 開 会	井上総務課長
2 任命書交付	岩澤町長より各委員に任命書を交付した。
3 あいさつ	<p>(岩澤町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嵐山中央地区都市再生整備計画は平成 23 年度に終了し、昨年度評価して頂き、多数ご意見を頂いた。</li> <li>・ 今回は嵐山北部地区都市再生整備計画の最終年度であり、評価をして頂くが、嵐山中央地区同様、ご意見を頂きたい</li> <li>・ 都市再生整備計画を遂行した地区では、成果が出てきていると感じている。</li> <li>・ 残念ながら、嵐山町の人口は減少している。近隣の市町村でも滑川町、東松山市以外は人口が減っている。町内では、整備をした地区では、計画の成果が出てきているのではないか。</li> <li>・ 今回の委員会を出して頂いた意見は、今後の施策に活かしていきたい。</li> <li>・ 本日はご多用の所出席して頂き感謝申し上げます。宜しく願いたい。</li> </ul>
4 委員紹介、事務局紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各委員より自己紹介を行った。</li> <li>・ 事務局の紹介を行った。</li> </ul>
5 議 題	<p>(1) 委員長および副委員長の選任について</p> <p>(岩澤町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、要綱第 5 条により、委員長及び副委員長を選出したい。選任をどのように行うか、お諮りしたい。</li> </ul> <p>(意見なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の会議において、どのように選出したか事務局から説明させ</li> </ul>

ていただきたいが、よろしいか。

(異議なし)

(井上総務課長)

- ・ 前回の嵐山中央地区における評価委員会では、委員長に都市計画審議会委員である真澤委員に、副委員長は、菅谷区長会会長である宮本委員にお願いした。
- ・ 今回は、前回の選考に倣って、委員長には、知識経験者から元都市計画審議会委員である真澤委員に、副委員長には、嵐山区長会の副会長である木場委員にお願いしたい。

(岩澤町長)

- ・ 事務局から説明があったが、どうか。
- ・ 協議の結果、了承された。

- ・ 真澤委員長及び木場副委員長より就任のあいさつがあった。

(2) 会議録署名人の任命について

(真澤委員長)

- ・ 議題(2)の会議録署名人の任命について、事務局より説明していただきたい。

(井上総務課長)

- ・ 会議録の署名人については、名簿の順により、奥田委員と水戸委員にお願いしたいが、よろしいか。

(異議なし)

(井上総務課長)

- ・ それでは、奥田委員、水戸委員に会議録の署名をお願いしたい。

(3) 事後評価制度の概要について

(4) 嵐山北部地区都市再生整備計画について

(真澤委員長)

- ・ 議題(3)について、事務局より説明をお願いしたい。
- ・ 伊藤副課長から配布資料により説明を行った。

(真澤委員長)

- ・ 質問はあるか。なければ、引き続き議題(4)の説明を事務局よりお願いしたい。
- ・ 伊藤副課長から配布資料により説明を行った。

(真澤委員長)

- ・ 災害時の避難場所等の目標数値であるが、満足度を9.2%から20%とするとある。これは、低いのか高いのか分からない。20%の満足度がいいのかとなると、本来では100%を目指すべきあり、目標としては低いのではないか。
- ・ 主要県道へのアクセス時間も8分になったとのことであるが、8分になったところの意味がよく分からない。
- ・ 目標数値に設定している、アンケートの満足度や、主要県道へのアクセス時間、参加ボランティア数だが、それをもって目標の達成となったかどうか分かりづらい。

(伊藤副課長)

- ・ 目標数値の設定ですが、災害時の避難場所等の満足度については、第4次総合振興計画策定時の住民アンケート数値の結果を基に、県内で作成された都市再整備計画を参考にし、目標の数値を設定しました。
- ・ 主要県道へのアクセス時間の設定ですが、町道1-8号整備により短縮可能な時間を設定しました。
- ・ 里山への参加ボランティア数については、地域の人口規模を鑑みて、事業の効果が明確になると思われる数値を設定しました。
- ・ ご指摘のとおり、設定した数値は、絶対的な数値ではなく、相対的な数値を目標としたものです。

(桑田委員)

- ・ 確かに、目標数値が設定された経緯がないと評価しにくい。また、災害時の避難場所や避難路に対する満足度とはどのようなものか。

(伊藤副課長)

- ・ 資料5に配布させて頂きました、「本地区の災害時の避難場所や避難路についてどのように感じていますか」の「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計となります。
- ・ 先程申し上げましたとおり、満足度の数値は、県内の都市再生整備計画を参考とし、県と内容を協議しながら設定させて頂きました。

- ・ 避難路に対する満足度については、例えば、この道路だから満足度がどこに反映するかなどは限定できませんので、そこは反省点であると感じております。

(真澤委員長)

- ・ 目標数値というのは、それによって事業の成果があがるというべきものだ。設定された数値が達成されたため、事業の成果があがったと明確になっていないように感じる。

(井上総務課長)

- ・ 目標数値については、県内の自治体を参考にし、県とも協議している。ご理解願いたい。

(水戸委員)

- ・ 5年という限られた期間では、大きな目標は立てられないことは理解できる。計画における目標としては、一般的なものではないかと思う。この計画で行って古里地区や越畑地区等はとても良くなった。道路整備により、町民も安心して生活している。

(5) 嵐山北部地区都市再生整備計画の事後評価の審議について

- ・ 伊藤副課長から配布資料及びパワーポイントにて写真を投影することにより説明を行った。

(真澤委員長)

- ・ 目標3の目標数値だが、参加ボランティア数を設定した理由をもう一度確認したい。

(伊藤副課長)

- ・ まず、今回整備させていただきました、金皿山里山公園については、以前から地元の方が里山事業をやりたいという要望がありました。それに伴い、地元の方と協議し整備したものです。
- ・ 嵐山町には、里地里山づくり条例を制定しており、本公園は条例の指定地となっております。指定地には、地元等の管理が条件となっているため、ボランティア数を目標数値としました。

(安藤委員)

- ・ 効果に国蝶オオムラサキが見られるようになったというが、北部地区でオオムラサキを保全するような指定地区があるのか。

(簾藤環境農政課長)

- ・ 特にそのような指定地区はない。
- ・ 金皿山公園の整備では、散策路やベンチを設置した。地元で管理しているボランティアの方から、オオムラサキが見られるようになったと聞いている。

(桑田委員)

- ・ 親水公園の整備だが、整備後の護岸が殺風景な印象がある。
- ・ 整備前は、木が覆いかぶさっていたようであるが、親しみやすさかつ緑豊かにするためにコンクリート護岸をする必要がどこまであったのか。ため池は嵐山町の景観の特徴であるのではないか。
- ・ 計画の目標にも緑を活かすとある。今後、ため池を整備する場合は、緑の景観を保全したほうが良いのではないか。ため池を地域資源として見ていく必要もあるのではないか。

(簾藤環境農政課長)

- ・ 本親水公園の両脇には道路があり、道路の維持のため、コンクリートの護岸を行った。コンクリート護岸を行っていない箇所については、地元と協議しながら緑化を進めていきたい。

(桑田委員)

- ・ 利便性が増したが、交通量が増加しているとのことである。通学路等については、歩道が繋がっていない箇所があるようなので、将来的な課題として記載したほうが良いのではないか。

(伊藤副課長)

- ・ ご指摘のとおり記載したい。

(田辺まちづくり整備課長)

- ・ 歩道整備などの交通安全対策はこれからも行っていきたい。繋がっていない歩道については、今後計画的に整備を行っていきたい。

(桑田委員)

- ・ 地元の暮らしやすさに直結した効果があると、住民に整備の効果が伝わりやすい。

(奥田委員)

- ・ 平成 23 年 3 月 11 日にあのような大震災があり、改めて地域の安全確保が言われている。それに先立ち平成 19 年に本計画が策定されており、先見の明があったと思われ評価したい。
- ・ 本計画には里山の整備を入れているが、里山の一番南は吉見町辺りであり、小川町までいくと里山ではなく山林になってしまう。里山は嵐山町の地域性・独自性があるので大変良いのではないか。
- ・ 主要県道へのアクセス時間であるが、何故最終地点が県道ときがわ熊谷線の森林公園入口なのか。

(伊藤副課長)

- ・ 東松山市や熊谷市に繋がる場所で広域的に移動しやすい地点であるため、森林公園入口を設定しました。

(井上総務課長)

- ・ 町道1-8号は、平成7年度に第3次総合振興計画を策定した時から、町の主要道路として位置づけている。しかし、整備事業費が多額であり、嵐山町から滑川町に繋げることは長年の課題だった。都市再生整備計画に計上することができ、事業を行うこととなった。

(真澤委員長)

- ・ 効果の説明の中に、防災ヘリポートを整備したとあるが、地域防災計画に防災ヘリポートは含まれているのか。

(中嶋地域支援課長)

- ・ 地域防災計画には、含まれている。今回整備した嵐山町役場に加え、七郷小学校校庭、総合運動公園、鎌形野球場の4箇所を指定している。

(水戸委員)

- ・ 別の防災の会議で説明されたが、防災ヘリコプターは、指定されたヘリポート以外には着陸しないという決まりがあるらしい。すると、4箇所では少ないのではないか。
- ・ 玉ノ岡中学校などにも避難する場所があるが、そこには着陸できない。

(中嶋地域支援課長)

- ・ 学校は、避難場所に指定している。避難している人が運動場にいる場合は、移動してもらう必要がある。防災ヘリコプターの指定地は、ある程度限られてくるものと考えている。

(内田こども課長)

- ・ 以前担当していたので、発言したいが、ドクターヘリのヘリポートは、これ以外に、菅谷中学校、志賀小学校、玉ノ岡中学校を指定している。当時は、消防署からは、比企管内では一番充実していると言われたことがある。

(6) 今後のまちづくりについて

(7) 評価委員会後のスケジュールについて

- ・ 伊藤副課長から配布資料により説明を行った。

(水戸委員)

- ・ 金皿山里山公園だが、行ってみると大変いいところである。景色が大変いい。ただ、入口がわかりづらい。最初は迷った。町が整備したのだから、地区住民だけでなく皆さんに来てもらいたいで、入口を分かりやすくしてもらいたい。

(簾藤環境農政課長)

- ・ 管理している地元の団体と協議していきたい。

(桑田委員)

- ・ 本事業で発生した課題として挙げられている「地域資源の点在」や「企業の進出」は、未解決の課題に分類したほうが良いのではないか。本事業で発生した課題は、交通の利便性の向上により発生した、歩行者の安全との両立ということではないか。

(伊藤副課長)

- ・ ご指摘のように修正させていただきたい。

(真澤委員長)

- ・ 今後のまちづくりに、杉山城跡の公有地化がある。松山城跡、鉢形城跡などの関係市町村で連携することは出来ないのか。

(伊藤副課長)

- ・ 杉山城跡は、嵐山町の菅谷館跡、松山城跡、小倉城跡とで比企城館跡群として国史跡に指定されました。保存管理計画も、小倉城跡と一緒に作成しております。今後も、連携していくものと考えております。

(桑田委員)

- ・ 道路整備において、生活道路整備は、確かに利便性等は向上されたが、受益者が少ない箇所も実際にはあるのではないか。今後、町が単独で工事を行う場合などは、受益者負担のありかたについて検討した方がよいのではないか。

(田辺まちづくり整備課長)

- ・ 今回の整備計画で行った事業において、買収単価や補償単価を見直して行っている。

(木場副委員長)

- ・ 親水公園工事等には、広野文化村の整備基金が入っていると思うが。

(伊藤副課長)

- ・ 深谷沼親水公園、金皿山里山公園整備につきましては、ご指摘のとおり広野文化村整備基金を充当させて頂いております。

(桑田委員)

- ・ そのようであれば、それを記載したらどうか。

(奥田委員)

- ・ これまで、町では企業進出を促してきており、工業団地も工場が入っている。しかし、企業は景気の動向により事業計画を変更してゆく。工業団地内に入った企業に対しても、誘致して終わるのではなく、事業変更等に対応できる町のサポートを検討したほう

	<p>が良いのではないか。</p> <p>(井上総務課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町は、企業支援課をつくり、企業支援を積極的に行うこととしている。花見台工業団地では、工業会と企業支援課との連携を図っている。</li> <li>現在は、インターチェンジランプ内への企業誘致を今後の課題としている。</li> </ul> <p>(水戸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広野地区に住んでいるが、おおむらさきゴルフ倶楽部へ行く方から道を聞かれることがよくある。現在は、おおむらさきゴルフ倶楽部へ行く場合、ナビは東松山 IC から案内するが、今後町道 1-8 号が整備されると嵐山小川 IC から利用されるようになるだろう。交通量は増えてくることになり、安全面では課題となってくると思うが、平成 25 年度以降、この地域がかなり活性化されるものと考えている。</li> <li>この都市再生整備計画は、今後どのようなようになるのか。</li> </ul> <p>(伊藤副課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町道 1-8 号整備のうち、2 工区など整備工事は繰越しさせて頂き、事業は残ります。しかし、計画は平成 24 年度で終了となります。</li> <li>この会議を取りまとめて、事後評価結果を国に報告します。</li> <li>先程説明させて頂きましたフォローアップ計画が認定されれば、計画どおりフォローアップを行うこととなります。その時点では、評価委員会等会議は行いません。ホームページで公表し、国に報告するのみとなります。</li> </ul> <p>(真澤委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他に意見がありますか。</li> <li>ないようであれば、これで議事を終了いたします。</li> </ul>
6 閉 会	真澤委員長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>平成 25 年 3 月 21 日 署名委員 <u>奥田作雄</u></p> <p>平成 25 年 3 月 21 日 署名委員 <u>水戸敏允</u></p>	